

テーマ:

浜田の魚をもっとたくさんの人に食べてもらおう ～「いりこ」を使ったピザ作りを通して～

島根県
浜田市立長浜小学校

飯田祐次先生
小田将史先生 下隅理恵先生



この活動の特徴



「凜々子」活用のポイント①

地元の食材である魚と「凜々子」
を使ったメニュー開発に取り組んだ

「凜々子」活用のポイント②

「食」をきっかけに自分たちの住む
地域の特性を学んだり
地域の方々と交流をしたりした

活動のねらい



- 野菜の栽培の楽しさや苦労を実感し、食べ物や生産者の方への感謝の気持ちを育む
- 地域の方との交流を通し、地域への愛情を育む

活動の概要と流れ

対象学年 : 6年生 (42名)
実践期間 : 4～11月

時期	学習活動
4月	・畑の準備 (耕す、畝を作る、マルチシート)
5月	・「凜々子」の定植 世話、観察開始
7月	・初収穫 ・調理実習(魚の缶詰を使った餃子の皮ピザ作り)
8月	・夏休みの宿題で「凜々子」と魚を使ったレシピ を考え、調理をした
9月	・夏休みの宿題のレシピを発表 ・「魚食の普及に向けて」をテーマに総合学習に 取り組んだ
10月	・「凜々子」と魚のピザ作り 地域の方に魚やイカのさばき方を教わった
11月	・学習発表会で「凜々子」と「魚」のピザなどについて 発表を行った



ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

🍷 「凜々子」と「地元食材」のコラボレーションレシピ

校区に漁港があるが、魚の良さ、港で働く人や地域の方の思いをよく知らない児童がいる。そこで、「凜々子」の栽培を通じて、食べ物や生産者の方への感謝の気持ちを育んでほしいということを目的に取り組んだ。

総合的な学習では「魚食普及にむけて」というテーマで取り組むこととなり、夏休み前には収穫した「凜々子」と魚の缶詰を使った餃子の皮のピザの調理実習を行った。この調理実習を踏まえ、夏休みに「凜々子」と魚を使った料理のレシピを考えるという宿題を出した。夏休み中に児童は自宅でレシピ開発に励み、2学期に各自が持ち寄ったレシピを囲み意見交換をした。その結果、餃子の皮を使い、本物の魚をさばいてのせる魚ピザのレシピを考え、調理実習を行うことになった。

6つの班に分かれ、鮭、カレイ、しらす、イカなどの魚介類を使ったピザレシピを考え、魚のさばき方は「長浜海っ子女性部」の皆さんに教えていただいた。「楽しかった」「家でもさばいてみる」などと言った感想も多かった。また、地域の方との交流にもつながり「道で魚のさばき方を教わった〇〇さんに会って挨拶をした」という児童もいた。自分たちで育てた「凜々子」

と地元食材である魚を使った調理実習は、とても有意義なものとなった。

🍷 魚食普及のためのCM作り

前述の通り、2学期の総合的な学習の時間は「魚食普及にむけて」というテーマで取り組んだ。

農林水産省「食糧需給表」をもとに「なぜ魚介類の消費が減っているのか」考えた。その理由として「漁獲量の減少」や肉食を好む人が増えたという「嗜好の変化」などという意見が挙がった。この理由から「魚食の普及のために自分たちにできることを考え、「魚食についてももっと知ってもらおう」「呼びかける」ことが大切ではないかと考え、CMを作ることになった。

まずはCM制作の仕組みを知るために、他校の児童が作ったお米のCMやテレビCMの作り方の研究をした。絵コンテを作成し、パソコンを使った動画の編集方法を学び、CMを完成させた。できあがったCMは学習発表会で披露した。

この取り組みを通じ、自分自身の食生活について考えるだけではなく、短い時間で相手にわかりやすく伝えるということや、パソコンでの難しい作業を最後まであきらめずにやり通すことの大切さなど、多くのことを学んだ。

先生から一言！実践を通して

「凜々子」の栽培活動は野菜を育てることの大変さ、収穫の喜び、仲間と一緒に活動することの楽しさを学ぶだけではなく、地元の漁港や魚などについても考える、よいきっかけにもなりました。

「凜々子」の栽培や料理のレシピを考えたことにより、徐々に児童の食に対する興味関心が高まっていきました。そして活動が進むにつれ食べ物を大切にしたり、感謝したりする姿が見られました。また、地域の方に魚のさばき方を教わったことにより魚への興味がわき「家でも魚をさばいてみた」「前より魚が好きになった」という児童もいました。魚に対する意識の向上が見られただけではなく、地域とつながることもでき、とても充実した活動になりました。

今回の「凜々子」栽培活動を通して、食や地域への愛情を育むことができました。



受賞理由

栽培にとどまらず、「魚食普及」という地域課題と関連づけたところが素晴らしいです。「凜々子」を使った魚料理を考え、さばき方などを教えてもらう。地域の方々との交流もあり、魚や食への興味関心だけでなく、地域への愛情をもつきっかけとなるととても良い取り組みでした。